

(沖縄エリアにおけるICTを活用した取組の紹介－2)

北部広域ネットワーク整備事業（地域整備事業） (伊江村)

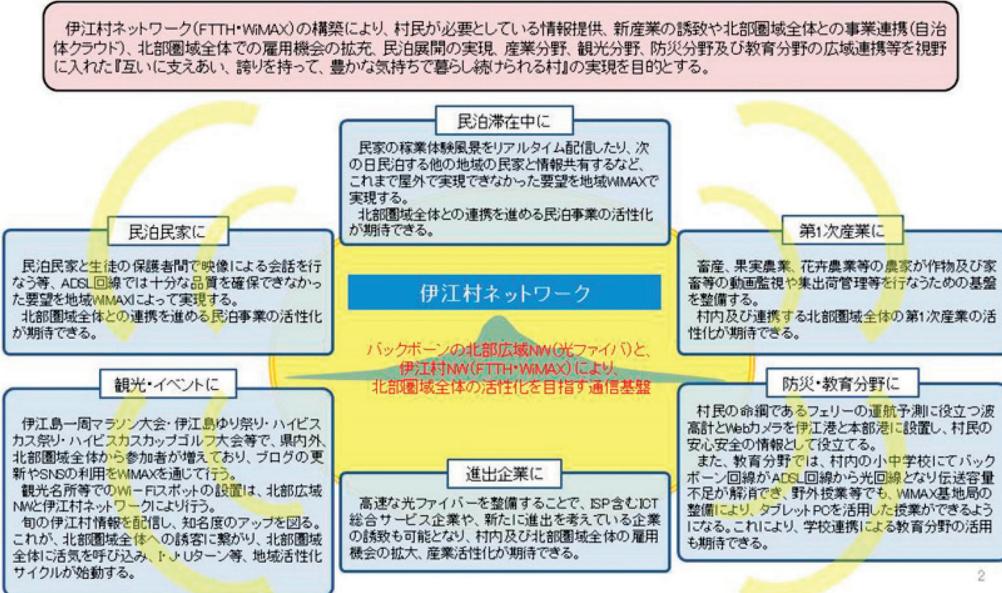
地域BWAについては、広告掲載ページを参照ください。

〔事業概要〕

本事業では、北部広域ネットワーク整備事業にて本部町と伊江村間をNTTのダークファイバをバックボーンとして整備し、地域整備事業にて、幹線の光ファイバーとWiMAX基地局9局を整備した。これにより、屋外でのインターネット環境がなかった伊江村において、無線で最大20Mbpsのインターネット接続ができるようになった。

村民、民家体験泊の修学旅行生、観光客などが、伊江村内に居ながら、いつでも・どこでも・誰でもが、やりたい時にインターネットがされることから、観光案内や地域情報の提供のほか、災害からの避難ツールとして活用でき、安心・安全で楽しく本村に滞在できる環境が実現できた。

2.事業の目的と全体像



〔コラム〕

① サービスイメージやシステム構成

北部広域ネットワーク整備事業にて本部町と伊江村間をNTTのダークファイバをバックボーンとして整備し、地域整備事業にて、幹線の光ファイバーとWiMAX基地局9局を整備した。

これにより、無線で最大20Mbpsのインターネット接続が可能となった。

【北部広域ネットワーク整備事業】

- ① 伊江ー本部間光ファイバ整備（ダークファイバ利用）
- ② フリー Wi-Fi設置カ所：3カ所（伊江港・本部港・伊江村役場）

【地域整備事業】



特集 1

沖縄エリアにおける ICT を活用した取組の紹介

- ① 地域WiMAXのアンテナ数：9か所
- ② 地域WiMAXルータ認可数：250台
- ③ 防災監視用カメラ設置数：4台（伊江村役場1台・伊江港2台・本部港1台）
- ④ 波高計設置数：2台（伊江港1台・本部港1台）
- ⑤ フリー Wi-Fi設置カ所：5カ所（城山壳店・村民レク広場・農村環境改善センター・フェリー2隻）

② 事業展開による効果・成果

<自治体側の効果>

情報配信の幅が広がった。

<地域住民側の効果>

村内外でいつでもどこでもインターネットが可能となり、情報収集、情報発信が用意になった。

WiMAXの幹線である光ファイバ網を利用した携帯キャリアのサービスが始り、住民の利便性が高まった。

<事業者側の効果>

本事業で整備した基地局等につき、維持管理は地元業者と無線局は株式会社アール・イー・アイ伊江島情報通信事業所と指定管理契約を結んでいるが、伊江島情報通信事業所では、一般村民向け、村内民宿やホテル向け、公民館等の公共施設向けに地域WiMAXを使ったサービスを展開している。サービス内容は、インターネットアクセスサービスに加えて、地域WiMAXの地域ネットワーク網の特性を活かして地域ネットワーク限定の動画コンテンツ提供サービスをおこなっている。伊江島情報通信事業所は、村内に事業所を設けているため、地域でのサービス提供業務が村内の直接雇用に繋がる事で、地域の発展へ繋がることも目指している。今後は、地域ネットワークを活用したサービスを充実させていくことで村内での地域WiMAXの利活用者増を目指している。

③ 事業展開のポイント

独創性・先進性

本村では、近年、第3次産業が高い伸び率を示し、第1次産業を上回りトップとなった。多種多様なサービスが増える中、自然環境や立地条件に好感を抱き、本村に支店や営業所を置きたいという企業からの申し出も増えてきた。これは、平成15年度から伊江島観光協会等が修学旅行生を対象に取り組んでいる短期滞在型民家体験泊事業（以下「民泊」という。）が脚光を浴び、平成23年度の民泊利用人数は、5万人を超えるほどの成長となり、それ以外の修学旅行生や観光客を含めると、人口5千人弱の島に約16万人の人が訪れていることが要因である。また、伊江島一周マラソン大会や伊江島ゆり祭り、ハイビスカスまつり、ハイビスカスカップゴルフ大会等のイベントを実施するなど、県内外からの観光客も着実に増加傾向にある。

しかし、本村では超高速回線が整備されておらず、固定系はADSL回線のみであり、移動系も4Gエリア内として指定されてはいるものの、実質的にはほとんどがエリア外で使用できない状況であ

る。そのため企業の進出条件である超高速な通信環境が満たされず、具体的な進出は実現していない。また、来島した観光客から情報通信環境の改善や島の情報発信の充実が求められているが、採算性等を理由に通信事業者も足踏み状態であり、効果的な方策を導入できない状況である。

このようなことから、北部広域ネットワーク事業にて整備されるバックボーン回線に併せて光と無線（FTTHと地域WiMAX、Wi-Fi）による地域整備を実施し、ラストワンマイルを実現する。これにより、観光客を含めた防災・減災の情報配信や映像による観光情報の配信、リアルタイムでの情報の共有等、いつでも・どこでも・誰でもがICTを享受でき、安全で安心して暮らせるより良いサービスの提供と地域活性化を図る。

継続性

横展開

地域WiMAX利用者数の増が必要である。

効果的なICT利活用

本村では、情報化社会の到来により、離島であるハンディを克服するツールとしてネットワーク構築に取り組んできたが、当時は有線でインターネット回線を構築するためには膨大なコストがかかることから、無線アイランド構想を掲げ、無線に特化した事業を展開し、実証実験等を踏まえながらブロードバンド整備を行ってきた。地域WiMAXはLTEと違い、月額利用量に制限がないことと、インターネット利用だけでなく、地域ネットワークによるコミュニティの構築が可能なことから選択した。

住民等との連携・協力

本部町の協力のもと、NTTのダークファイバをバックボーンとして利用している。本事業で整備した基地局等につき、維持管理は地元業者と無線局は株式会社アール・イー・アイ伊江島情報通信事業所と指定管理契約を、光ファイバーは沖縄セルラー株式会社とIRU契約を締結している。

平成27年度は地方創生先行型事業を活用し、観光客や民泊利用生徒向けにサービスを提供するため、民泊受け入れ民家、宿泊施設、飲食店等に利用料の一部を補助した。

波及効果

〔サービス利用者の声〕

〔今後の課題と展開〕

- ・地域WiMAXで地域行事等の地域限定コンテンツを放映しているが、コンテンツの充実と認知度の向上が必要である。
- ・沖縄の離島である本村に、光ファイバあり、無線ありという、正に都会と遜色ない環境が整った。



特集 1

沖縄エリアにおける ICT を活用した取組の紹介

SOHOや在宅ワークの可能性も広がり、新しいICT産業の創出や、起業者、事業者の誘致をよびかけ地域活性化に取り組む。また、インフラを活用した地域環境の整備を促進するため、地域ICTマネージャー派遣事業や地域情報化アドバイザー派遣事業を活用し、社会資源や地域コンテンツの充実を図る。



〔導入費・維持費〕

- ① 地域WiMAXコア局設備：28,215千円
- ② 地域WiMAX基地局建設費：14,986千円／局
- ③ ランニングコスト
 - ワイヤレスルータ電波利用料（年額）：510円／台
 - アンテナ電波利用料（年額）：95,400円（9局分）
 - ・沖縄北部連携促進特別振興事業費補助金

〔問い合わせ先〕

・団体 沖縄県伊江村

〒905-0592

沖縄県国頭郡伊江村字東江前38番地

- ・担当部署名：総務課 主査 濃野 正博
- ・電話番号／FAX番号：0980-49-2001
- ・e-mail：nouno-m@iejima.org
- ・その他の問合せ先：地域WiMAX推進協議会事務局

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F 一般社団法人電波産業会内

TEL 03-5510-8595/FAX 03-3592-1103 URL（問合せ等）：<http://www.chiiki-wimax.jp>